

アジアのゲートウェイとして県営名古屋空港の活用を — NBAA 2012で空港プロモーション活動を実施 —

平成24年12月10日
サンフランシスコ産業情報センター
駐在員 佐藤 賢児

国土が広大な米国では、各地域や都市間の移動は、自動車とともにビジネス機の利用も大変盛んであり、ビジネス機関連の展示会や会議が、毎年数多く開催されています。

この度、フロリダ州オーランドで開催された全米ビジネス航空協会（NBAA）主催の「第65回年次総会・展示会（NBAA 65th Annual Convention (NBAA 2012)）」に、本県及び名古屋空港の関係者と共に、県営名古屋空港のPR活動を実施するため、当センターもこのイベントに参加しましたので、その概況について報告します。

【民間航空機分野としては世界最大級の展示会】

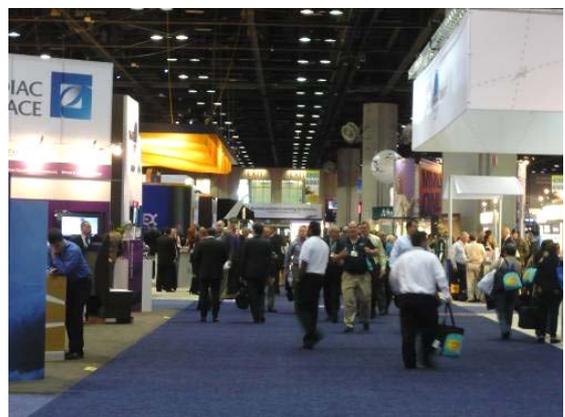
今年の中米ビジネス航空協会（National Business Aviation Association：以下「NBAA」）の主催による年次総会/展示会が、平成24年10月30日から11月1日の3日間、フロリダ州オーランド市のオレンジカウンティ・コンベンションセンターで開催されました。

NBAAは、1947年に設立されたゼネラル・アビエーション機の業界団体としてスタートし、現在では、9,000社以上の航空関連企業をメンバーとして有する世界最大のビジネス機の団体です。

NBAAでは、航空分野の安全性や運用効率の向上といった課題を始め、国際的な航空政策、航空交通システムの改善・標準化といった問題などにも積極的に取り組んでおり、民間航空機分野の展示会としては、世界最大級の規模です。



今年のNBAA年次総会/展示会は、開催日直前にアメリカ東部を襲ったハリケーン（サンディ）の影響から、8,000便以上のフライトが欠航（10/31時点）になったため、ブース出展企業やセッション討論会の出席者の中には、オーランドに来られないという影響も一部出たようですが、今年は、「No Plain No Gain」というプロモーション・メッセージを打ち出し、ビジネス機産業の必要性を広くPRしながら、屋内展示会場内のブース出展や、オーランド・エグゼクティブ空港での実機展示のほか、各種セッションや会合なども行われました。



そして、主催者からの発表によると、全米50州、世界87か国から25,150人の参加者があり、屋内展示会では1,073ブースが出展し、屋外展示場の空港では105機の実機が展示されました。

なお、屋内展示会場には、ボーイングやエアバス、エンブラエル、ボンバルディア、ガルフストリーム、ホンダエアクラフトといったビジネス機の機体メーカーを始め、大手エンジンメーカー、装備品、FBO、運行支援サービス、燃料、政府系機関など、ビジネス機業界に関連する様々な分野の企業や団体が出展していました。



【8年連続でNBAA総会/展示会に出展参加】

県営名古屋空港は、2005年の開港以来、8年連続でこの年次総会/展示会に参加しています。今年も、出展ブース内での来訪者対応や、FBOを始めとした出展者ブースへの訪問により、CIQの検査室を備えたビジネス機専用ターミナルや、駐機スポットからターミナル出口までの短い動線、高いセキュリティとプライバシー・利便性が確保されていることや、十分な発着枠及び駐機スポット、大型ビジネス機の離着陸が可能な滑走路長(2,740m)、東京や大阪を始めとした日本の主要都市への利便性の高いアクセス、インド、中国などアジア諸国に向かう際の給油地としての活用など、ビジネス機を積極的に受け入れる空港としての特長や利便性の高さを積極的にPRしました。

さらに、出展ブース内外でのPR活動以外にも、NBAA会場内のプレスルーム訪問や、NBAAのエド・ボーレン会長に対し、知事の親書を手渡し、会員企業への県営名古屋空港のPRを要請するなどの活動も行いました。

ところで、NBAA年次総会/展示会の会期中、毎日、「NBAA Convention News」という、ブース出展者やイベント来場者を対象とした会議誌が配布されていました。こうした雑誌に記事として掲載されると、かなりのPR効果が期待できますが、展示会への出展者は1,000以上にのぼるため、記事として取り上げられることは容易ではありません。

しかし、本県関係者がプレスルームを直接訪問し、県営名古屋空港の利便性の高さを積極的にPRした結果、会期最終日ではありましたが、会議誌に県営名古屋空港を記事として取り上げてもらうことができました。

【どんなユーザーがビジネス機を利用しているのか？】

NBAAが発行している「2012 NBAA Business Aviation Fact Book」を見ると、米国内におけるビジネス機（ヘリコプターやピストンエンジン機、ターボプロップ機、ビジネ

NAGOYA ROLLS OUT A FRIENDLY WELCOME

For the eighth year in a row, officials from Japan's Nagoya Airport are here at NBAA (Booth No. 3094) to highlight business aviation in the region.

Second only to the greater Tokyo area in terms of bizav volume in the country, Nagoya is home to 50 percent of the nation's aerospace industry and has been designated as an international strategic zone, with manufacturers such as Mitsubishi Regional Jets located at Nagoya Airport. Centrally located between Kyoto, Osaka and Tokyo, the airport, which is owned and operated by the local prefectural government, is open from 7 a.m. to 10 p.m. and features a business aviation terminal with separate discrete customs, immigration and quarantine facilities for private jet passengers.

The terminal offers nine business jet stands, which jets can taxi to under their own power, and passengers can deplane less than 300 feet from the terminal exit doors.

県営名古屋空港の紹介記事（抜粋）

「11/1発行NBAA Convention News」より

ス機)の市場概況が、いろいろな角度から分析されています。

※以下、主な内容を抜粋

役職別ビジネス機の利用回数	マネージャー・クラス (50%)、上級幹部 (22%)、技術/セールス/サービス部門担当者 (20%)、その他 (7%)
企業のビジネス機保有機数	1機 (75%)、2機 (12%)、3機以上 (13%)
ビジネス機を利用する理由	① 定期便にスケジュールを合わせなくてもいいため (64%) ② 行き先に、定期便のある空港がないため (19%)、 ③ 人的な安全性確保のため (6%)、 ④ 定期便のある空港への乗り継ぎ (1%)、その他 (9%)
ビジネス機を利用する企業	ビジネス機を利用している企業のうち 59%は、従業員数が500人以下の中小規模の企業

【ビジネス機専用空港として「最適」な水準】

同じく、NBAAが発行している「Airports Handbook」の中で、米国内の地方空港関係者向けにビジネスジェット機空港のガイドラインが掲載されています。

このガイドライン自体は、あくまでもNBAAが定める目安であり、また、日本と米国の基準の違いもあることから、単純に比較することはできませんが、それぞれの項目について見てみると、県営名古屋空港の施設は、NBAAが定める基準でも、おおむね「最適」の要件を満たしています。

しかし、残念ながら、米国では必須である気象予報情報がまだ提供されていません。

現在、ビジネス機の安全な運航に不可欠な気象予報情報は、日本全国に99ある空港の内、36空港しか提供されておらず、また、気象庁しか提供できないため、本県においては、気象予報情報の提供先拡大について、関係機関に対し要望活動にも取り組んでいます。

そして、これらの取組みにより、ビジネス機運航の安全性を更に高めるとともに、日本各地やアジア各国へのアクセスにも優れた県営名古屋空港の利便性の高さを、より多くの北米のビジネスジェット機関係者に知ってもらうため、今後も引き続き、県営名古屋空港のPR活動にも積極的に取り組んでいきたいと思っております。

	最適	可
滑走路	7,500ft × 150ft	5,500ft × 100ft
	全滑走路に誘導路 200 × 300ft駐機スペース(最低限)等	十分な駐機スペース
管制	あり/24時間	なし
灯火	全進入灯火システム、高光度滑走路灯	滑走路末端識別灯又は全方向性進入灯火システム
	進入角指示灯(全滑走路)	中光度滑走路灯、パイロット制御照明
気象予報	ASOS(自動地上気象観測システム)	AWOS(自動気象観測システム)
サービス	FBO(フルサービス)、一時駐機スペース	乗客用待機エリア、燃料、
	連邦航空局Part107に準拠したセキュリティ、着水防止	簡易なセキュリティ、公衆電話
メンテナンス	連邦航空局Part145に準拠した修理場	最低限のメンテナンス(タイヤ、バッテリーサービス等)
利便施設	空港近隣にホテルやレストラン	空港から離れた場所にホテル/自動販売機を設置

※ガイドラインから主な基準を抜粋